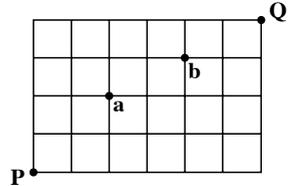


補充問題 2

● 最短経路の応用 ●

右図に示すように、碁盤目状の道路と4地点 P, Q, a, b があり、最短経路を通して P 地点から Q 地点に向かうものとする。このとき、次の各最短経路の通り数を求めよ。



- (i) P から Q に向かう最短経路の総数
- (ii) P から a を通って Q に向かう最短経路の数
- (iii) P から a と b の両方を通して Q に向かう最短経路の数
- (iv) P から a を通るが、 b は通らずに Q に向かう最短経路の数

ヒント! a を通る場合の事象を A, b を通る場合の事象を B とおいて求めていこう!

解答&解説

(i) $P \rightarrow Q$ の全最短経路数 $n(U)$ は、たて、横 10 区間の内、横に行く (→) 6 区間を選び出す場合の数に等しいので、

$$n(U) = {}_{10}C_6 = \frac{10!}{6! \cdot 4!} = \frac{10 \cdot 9 \cdot 8 \cdot 7}{4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1} = 210 \text{ 通り} \dots\dots\dots (\text{答})$$

ここで、「事象 A : 点 a を通る」、「事象 B : 点 b を通る」とおくと、

(ii) $P \xrightarrow{4C_2} a \xrightarrow{6C_4} Q$ より、求める最短経路数 $n(A)$ は、

$$n(A) = {}_4C_2 \times {}_6C_4 = \frac{4!}{2! \times 2!} \times \frac{6!}{4! \times 2!} = \frac{6 \cdot 5 \cdot 4 \cdot 3}{2 \cdot 1 \cdot 2 \cdot 1} = 90 \text{ 通り} \dots\dots\dots (\text{答})$$

たて、横 4 区間から (→) の 2 区間を選ぶ

たて、横 6 区間から (→) の 4 区間を選ぶ

(iii) $P \xrightarrow{4C_2} a \xrightarrow{3C_2} b \xrightarrow{3C_2} Q$ より、求める最短経路数 $n(A \cap B)$ は、

$$\begin{aligned} n(A \cap B) &= {}_4C_2 \times {}_3C_2 \times {}_3C_2 = \frac{4!}{2! \times 2!} \times 3 \times 3 \\ &= \frac{4 \cdot 3}{2 \cdot 1} \times 3 \times 3 = 6 \times 9 \\ &= 54 \text{ 通り} \dots\dots\dots (\text{答}) \end{aligned}$$

(iv) 求める通り数は、 $n(A \cap \bar{B})$ より、 \rightarrow 

$$n(A \cap \bar{B}) = n(A) - n(A \cap B) = 90 - 54 = 36 \text{ 通り} \dots\dots\dots (\text{答})$$